毎日新聞　コラム「三重～る経済」
掲載日　　2022年9月26日
タイトル　有意義なインターンシップ
執筆者　　百五総合研究所　滝川　綾菜

新卒者の就職・採用支援として、三重県は20年6月から、「『みえ』のインターンシップ情報サイト」を公開している。また、県教育委員会では、高校生向けの就職ポータルサイトとしては都道府県で全国初となる「みえる・わかる・つながる！職業ポータルサイト」を22年10月開設予定だ。サイトには、インターンシップを実施する事業者情報などが掲載される。

インターンシップについて、内閣府「企業の採用活動に関する実態調査」によると、20年3月大学及び大学院卒業・修了予定者向けに、全国で約6割の企業が実施していた。また、少し古いが、国立教育政策研究所の17年度の調査でも、全国の公立高校の84.0％、三重県では89.6％が実施している。

これまで教育機関としては学生にインターンシップへの参加を促してきており、文部科学省「令和元年度大学等におけるインターンシップ実施状況について」によると、全国の大学（学部・大学院）の約7割がインターンシップへの参加を単位認定している（教育、看護実習などの特定の資格に関するもの以外）。県内でも、医療系を除く4年制大学4校で、インターンシップ参加を卒業要件としたり単位として認めるなどしている。

採用を考える企業にとって、インターンシップは、学生の能力や価値観などを把握し適正を判断したり、入社後のミスマッチを未然に防げたりするメリットがある。また、学生にとって業務内容や働く環境などを改めて認識できる機会にもなる。インターンシップの受け入れは準備や対応に時間を要し、大変なところもあるが、人材確保に繋がる良い機会である。企業・学生ともに活用してみてはどうだろうか。